地歴公民（世界史）　東京大学　（前期）　1/3

＜全体分析＞

試験時間　２科目で 150 分

解答形式

（第１問）論述式　（第２問）論述式・記述式　（第３問）記述式

分量･難易（前年比較）

分量（減少･やや減少・変化なし･やや増加・増加）

難易（易化･やや易化・変化なし･やや難化・難化）

第１問が問⑴の 12 行と問⑵の５行の２題で構成された。合わせて 17 行であり，2020 年から 23 年の 20 行と比べて３行少ない。第１問で複数の問いを出題するのは 1989 年以来である。

第２問は，昨年度が３行論述が１題と２行論述が４題であったのに対して，今年度は４行論述が１題，３行論述が２題，２行論述が２題。第２問の総行数の推移は 2021 年度が 13 行，2022 年度が 14 行，2023 年度が 11 行で，今年度は 14 行。昨年度より３行増えたものの，第１問の行数の合計が３行少ないため，合計の行数は同じである。第３問は従来通り設問 10 問であった。５年連続で解答数は 10 個，５年連続で１行論述は出題されなかった。

出題の特徴や昨年との変更点

第１問が２題で構成された点は，昨年を含む従来の出題傾向に長らく見られなかったものだが，本質的には第１問・第２問・第３問ともに大きな相違はない。第１問は「1960 年代のアジア・アフリカの対立と，1960 年代における国際連合の取り組み」，第２問は「書物の継承と，弾圧・忘却」，第３問は「征服と支配，それに対する抵抗」がテーマとなった。

その他トピックス

昨年度の第１問は，地図を踏まえながら「ヨーロッパ，南北アメリカ，東アジアにおける政治的変化（1770 年前後～1920 年前後）」を問う出題であったが，それと比べると今年度の第１問はより狭い時期を考察するものとなった。どの年度においても，大きく世界史を捉えて論じる理解力・構想力が求められているのは当然であるが，昨年度と比べると現代史の知識の多寡で点数が左右されやすいだろう。第１問の難易度は昨年度と同等だが，知識的にはやや難しくなった一方，求められる理解力・構想力としては昨年ほど高度ではなかったとも言えよう。また，出題されたテーマは 2012 年度の第１問と類似しており，東大対策における過去問の重要性を示している。また，今年度の第１問は２題に分割されているとはいえ，本来なら１題で成立する問題を，とりわけ問⑵をしっかり述べさせるために分割したとも考えられる。それゆえ，第１問を分割する出題傾向は，今後も続くとは限らないだろう。

第２問は例年と比べて平易であった。大学受験科の基礎シリーズ「世界史　演習編」テキスト p. 290 の問題が，第２問⑴⒝の問題にズバリ的中であった。とはいえ，どの問題も難易度は平易であり，日々の学習を通じて解答できるだけの学力を習得していることが求められる。

第３問は，問⑽でサイードが出題されたように，昨年度と比べて若干難しくなった。これらのことから判断して，総合的には分量・難易度ともに昨年度と比べて変化なしとした。

© 河合塾　2024 年

地歴公民（世界史）　東京大学　（前期）　2/3

＜大問分析＞

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
第１問	論述	1960 年代のアジア・アフリカの対立と，1960 年代における国際連合の取り組み	問(1)「1960 年代のアジアとアフリカにおける戦乱や対立」なので，1950 年代や 1970 年代の事柄は含まれない。例えば，アルジェリア戦争の勃発や第１次印パ戦争は範囲外となる。問題文の「独立を得る過程では戦乱が起こった」はアルジェリア，「独立した国どうしが対立」は，パキスタンとインドであり，ベトナム民主共和国（北ベトナム）とベトナム共和国（南ベトナム），「～など，道のりが容易ではない」は，独立直後に分離独立運動が起こるコンゴを想起する。字数の制約上，「アジアとアフリカ」といっても多くの国に言及することは難しく，2012 年第１問と同様に，指定語句を踏まえて内容を限定することになるだろう。問(2)まず「経済的な問題」の「歴史的背景」として植民地統治下の問題点を挙げる。資料の演説にあるように，旧宗主国が「工業化」を進めることで，例えばモノカルチャー経済など「低開発」の状態に植民地側がおかれたこと，経済的に従属したことを示す。「1960 年代に国際連合はいかなる取り組みをおこなったのか」については，国連貿易開発会議（UNCTAD）が発足し，南北問題の是正を図ったことを示す。	標準
第２問	論述 記述	書物の継承と，弾圧・忘却 （古代～近世）	問(1)(a)「キリスト教と政治権力との関係の推移」が題意。単なるキリスト教史や，ローマ帝国史にならないように気をつける。問(2)(c)マムルーク朝だけでなく，サファヴィー朝について言及することを忘れない。「対外戦争の成果」も解答から読み取れるように。問(3)(a)「書物に関して～どのような政策を展開したか」なので，言論弾圧全般を問うているわけではない。問題文で「書物や編纂物」とあるが，何か１つ例を挙げれば良いだろう。清朝は編纂事業を行ったが，それは検閲・禁書とも結びついていた。	やや易
第３問	記述	征服と支配，それに対する抵抗 （古代～現代）	問(6)の「サティー」が少し難しいが，2010 年第２問でも出題されている。問(10)の「サイード」も少し難しいが，ミスがあっても１問以内にとどめたい。	標準

※難易度は５段階「易・やや易・標準・やや難・難」で，当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

© 河合塾　2024 年

地歴公民（世界史）　東京大学　（前期）　3/3

＜学習対策＞

第１問は，題意を踏まえていかに歴史的な文章を構成できるかが問われるので，論述力を日々研鑽することが大事となる。第２問は基本的な問題が中心だが，要点を的確に指摘できるように内容の理解を深めておかないと高得点は望めない。第３問は平易だが，第１問・第２問との時間配分にも留意しなければならない。基本知識をしっかり習得したうえで，第１問の大論述だけでなく，第２問の短い論述に対しても十分な準備・対策が必要である。年度ごとに出題形式・字数など若干の違いはみられるが，本質的な学力を求められている点では変わらない。時間軸・空間軸に沿って大局的に歴史をとらえることを心がけよう。

© 河合塾　2024 年